

横須賀鎮守府戦時日誌

横須賀鎮守府司令部

自昭和十七年五月十一日
至昭和十七年五月十一日

武功調査委員長 殿

月二日



0848

自昭和十七年五月一日
至昭和十七年五月三十一日
横須賀鎮守府戦時日誌

海
軍

目次	
一	経過
二	人員ノ現状
三	令達報告等
四	参考
(1)	部下艦船(特設ヲ含ム)ノ行動
(2)	徴傭船舶ノ徴傭解傭
(3)	學生練習生及講習員等ノ員數
(4)	實験研究
(5)	内戦訓
(6)	寫眞
五	作戰經過概要

0880-

(イ) 一般情勢

(一) 七日コレヒドール陥落シ外南洋諸島米英勢力ノ一掃成リ愈大東亞共榮圈ノ本格的建設段階ニ入ル

(二) ニューギニア島南東方海面ニ於テ珊瑚海海戦起リ米英聯合艦隊ヲ捕提撃破セシモ漸ク此ノ方面多事ナラントスル形勢アリ

(三) 本邦東方沿岸ノ敵潜水艦ハ前月ニ引續キ跳梁ヲ逞フシ敵潛發見回數三十八回ノ多キニ上レリ

(ロ) 敵ノ情勢

外南洋ヨリ全ク退却スルニ至リシモ敵ハ南太平洋經由濠洲ニ兵力ヲ輸送シ機ヲ見テ「ソロモン」群島方面ヨリ我ガ占領地ヲ奪回セントスル氣配アリ

(ハ) 任務、編制、配備

巻末添付ノ機密横須賀鎮守府作命令ノ通

海
軍

(二) 作戰指導

(一) 中央、隣接警備府、艦隊及陸軍トハ電話、文書、電報又ハ幕僚連絡將校面接ロ述等ニ依リ緊密ナル連絡ヲ保持ス

(二) 一般的指揮官ノ判斷作戰計畫及命令ノ要旨部下及友軍ノ行動概要ハ機密横須賀鎮守府命令作第七八號及第八一號ノ通ナルモ近海ニ於ケル敵潛艦艦ノ情況ニ鑑ミ五月十五日以降東京灣出港船舶ハ船團直接護衛ヲ行フコトセリ

(三) 敵軍ノ情況

本月中敵潛水艦發見及被害ノ狀況左ノ通

日	時	發見艦船機	種	噸數	位	置	記
一	〇九四〇	館空飛行機			勝浦ノ一八〇度四〇	潜	敵潛發見
、	二三二五	堀	聯合艦隊	九〇〇	後前堀 二〇〇度四〇	潜	被雷沈没
二	〇二五五	鈴空飛行機			大王埼ノ一二三度二四	潜	敵潛發見

海軍

四	一三三〇	金剛山丸	横防戦	二、一九	大王崎ノ二〇〇度二四漉	被雷沈没
・	一六五〇	ビルマ丸	南洋海運	四五八四	北緯 三四度四六分	被雷ナシ
・	一九二五	独島丸	横防戦		東緯 一三九度一〇分	被雷ナシ
・	二三〇〇	和美丸	同	右	利島ノ二五度七・五漉	敵潜ラシキ
五	二〇五七	新東北丸	同	右	大王崎ノ二〇〇度二四漉	海上潜発見
六	一四三〇	二六航機			大王崎ノ二一六度二〇漉	同
・	一九三五	銀洋丸	大阪商船	二、一三〇	木更津ノ一二〇度一七三漉	敵潜発見
・	一九三五	和美丸	横防戦		北緯 三四度一三分	被雷ナシ
・	一九三五	和美丸	横防戦		東緯 一三六度五五分	被雷ナシ
八	一〇一七	栗田丸			大王崎ノ一八〇度五漉	同
・	一〇四五	横防戦			洲ノ増ノ三三五度五八〇〇米	敵潜発見
九	一二二〇	二六航機			洲ノ増ノ一〇度六〇〇〇米	同
・	一三二〇	四等丸	大連汽船	四九二六	木更津ノ一一度一九四漉	敵潜ラシキ
・	一三三〇	眞洋丸	日本眞珠	二、七四四	北緯 三四度一〇分	被雷ナシ
・	一三三〇	眞洋丸	日本眞珠	二、七四四	東緯 一三七度二三分	敵潜発見

海軍

一〇	〇六〇五	第五惠壽丸五艦隊	東北緯	一五六度一〇分	攻撃ヲ受ク
一	一四〇〇	第三八兩進丸同 右	同 右	一五二度〇〇分	同 右
一	一六一五	第一福久丸同 右	東北緯	一五六度一〇分	敵滑ヲシキ
一二	〇三二五	岩手丸同 右	東北緯	一五一度二〇分	敵滑ヲシキ
一	〇九二〇	愛宕飛行機	風早埼ノ	九〇度六分	滑空機発見
一	一三〇〇	安州丸五艦隊	東北緯	一四五度三〇分	被弾ナシ
一	一八〇〇	第三三兩進丸同 右	東北緯	一四〇度四〇分	敵滑発見
一三	〇八五五	昭南丸拿捕船 五三五六	東北緯	一三九度一四分	被弾沈没
一	〇九四〇	十一聯隊飛行機	野島埼ノ	一四〇度一八分	浮上滑発見
一	一五三〇	霞空飛行機	野島埼ノ	一〇〇度二五分	滑空機発見
一	二〇四〇	呂宋丸二監視隊	野島埼ノ	一二〇度五分	敵滑発見
一五	一四一二	洋島横防戦	洲ノ埼燈台ノ	二八二度一二分	氣泡ヲ認ム
一	二二三〇	淺間丸日本郵船	東北緯	一四〇度五二分	敵滑ノ追跡ヲ受ク

海軍

(四) 作戰ニ影響セル事項

(1) 五月一日瑞穂、五月四日伊勢灣方面支隊指揮官乗艦金剛山丸敵

記 事	要失艦船	本月中	四隻	一八、八五五屯	累計	九隻	三五、七三一屯
一六〇〇一四	昌榮丸 一監隊附	北緯	三六度四分	被撃ナシ			
一八一二六	壽山丸 大連汽船	北緯	一四度五分	被撃ナシ			
二五 一〇〇〇	横空飛行機	東緯	一三八度四分	被撃ナシ			
一五五〇	喜多方丸 栗林商船	風 埼ノ二〇〇度六千米	敵潜発見				
二八 一八二五	栗田丸 二十二戦隊	北緯	七〇度六〇分	被撃沈没			
二九 一三〇五	横空飛行機	東緯	一四一度五分	被撃ナシ			
一九二五	館空飛行機	稻取埼ノ一六五度五湮	敵潜発見				
二三〇〇	興海丸 横防戦	風早埼ノ二四〇度一二湮	海上潜発見				
三〇 一六四〇	十四號艦潜艇同 右	風早埼ノ二三五度二千米	敵潜発見				
		神子元島燈台ノ	潜望鏡ヲシ				
		七六度一一湮	キモノ発見				

海 軍

潜水艦ノ雷撃ヲ受ケ沈没ス

(2) 本月中本府警備海面内ニ於ケル保安事故ナシ

(水) 戦 備

(一) 教育、訓練及實驗研究

(1) 領守府聯合教育

課 目	期 日	場 所	實 施 項 目	参 加 員
通信術(信號)	六 日	横一團	手旗信號教練	下士官兵 三六名
主 計 科	六 日	經理部	戰費ト資源(講話)	准士官以上 五四名
・	八 日	・	物品會計(講話)	下士官兵 五六名
通信術(信號)	二十 日	横一團	旗號信號教練	下士官兵 一五名
一、義眼製作供覧 二、感覺性癱瘓ニ於ケル視聽 經絡症狀群ニ就テ 三、肺結核患者ニ施行セル「マ ントー」反應ニ就テ				

海 軍

工機 作關 術術	醫務科
二十一日工	二十日
校	病
一、聯合教育施行ノ趣旨並ニ 今次戦争ノ段階ト戰時機 間ノ整備ニ就テ 二、大東亞戦争ノ戰訓並ニ所 見 三、戰訓並ニ所見（飛行艦隊 基地設備工作ニ就テ）	四、實用義手ニ就テ患者供 覽 (ロ) 整形外科診斷用小器具 ノ供覽 (ハ) 數種ノ實用義手ヲ患者 ニ裝着セシメ供覽ス (ニ) 實長測定用鉛尺、膝關節 屈氣用補助具「ランゲ」 ノX脚尺度等診斷用小 器具ヲ供覽ス 五、微毒性乾癬患者供覽 六、腹筋痙攣ノ一例ニ就テ患 者供覽
下士官兵一八〇名	准士官以上 六六名 外務廳者 二名

海軍

(2) 各學校練習部教育

主計科	二十一日	經理部	金銀會計(講話)	特 准 五〇名
・	二十六日	稻田味噌製造工場	味噌製造法(見學)	准士官以上二七名 下士官兵五一一名
教育機關	期 日	實 施 學 理 摘 要		
横砲校	一日	第四回測的術特技兵講習始業		
・	十五日	第四十期高等科學生始業		
・	二十日	第二回法務科士官講習始業		
・	・	第八十九期普通科砲術、第二十一期普通科測的術練習生終業		
砲校	・	第三期普通科砲術練習生終業		
水 校	十一日	第四十期高等科學生始業		
・	二十日	第七十七期普通科水雷術練習生終業		
醫 校	四 日	第七期高等科水測練習生始業		
・	二十日	第十七期普通科機雷術練習生終業		

海 軍

・	・	・	航 校	・	・	・	・	・	・	・	通 校	留 校
二十日	十九日	十六日	十一日	二十八日	二十四日	二十日	十九日	十六日	十五日	十一日	五日	三十日
第八期普通科操舵應急術練習生終業	第二回氣象臨時講習始業	第一回氣象術臨時講習終業	第八期高等科學生始業	九七式印字機講習開始	臨時通信術（普電特）講習終業	第三次電波探信儀講習開始	第二次電波探信儀講習終了	第一次臨時通信術（普電特）講習始業	第五十九期普通科電信術練習生（殘半數）終業	第四十期高等科（電信術）學生始業	第五十九期普通科電信術練習生（半數）終業	第一期特修科學生終業

海
軍

工	校	十	日	第八期高等科學生始業
・		二十	日	第七十四期普機、第一期普内火、第七十五期普電練習生終業
工	作校	五	日	第一期專修科工作術練習生始業
・		十一	日	第一期高等科學生始業
・		二十	日	第八期普通科工作術練習生終業
機	一團	一	日	第一回操舵應急術特技兵講習終業
・		・		新兵（軍樂兵）始業
・		七	日	初任下士官特別教育開始
・		十一	日	第二期准士官學生始業
・		十五	日	第二回操舵應急術特技兵講習始業
機	二團	一	日	新兵（志願兵）始業
横	空	・		第五十七、五十八期特修科學生、第三十期整備學生始業
・		・		龍驤乘員ニ對シ零戰ノ取扱整備講習開始

海軍

1980

横 空	一 日	機密横領命令第一四四號ニ依ル初任准士官講習開始
・	五 日	機密横領日令第二一五號ニ依ル兵科高等科學生航空術講習開始
・	六 日	龍驤乗員ニ對スル零戦ノ取扱整備講習終了
・	九 日	機密横領日令第二一五號ニ依ル兵科高等科學生航空術講習終了
・	・	第七十七期普通科整備術練習生始業
・	十三 日	第六航空隊員ニ對シ十三試双發戦闘機整備取扱法講習開始
・	十六 日	第十四期高等科兵器術練習生終業
・	十二 日	第六期特飛練（線上火災者）終業
・	二十二 日	第六十八期高等科電信術練習生始業
・	二十五 日	初任准士官講習終了
・	二十六 日	第六航空隊員ニ對スル十三試双發戦闘機整備取扱法講習終了
・	三十 日	第十七期普通科兵器術練習生終業
横 空 分 遣 隊	二十九 日	第七十八期普通科整備術練習生始業

海
軍

土	空	一	日	第十六期、第十八期乙種飛行操科練習生始業
・		二十六	日	第十三期乙種、第十期丙種飛行操科練習生終業
・		三十	日	第十一期甲種飛行操科練習生終業
百	空	二十三	日	第二十三期飛行練習生終業
名	空	・		第二十三期飛行練習生終業
鹿	島	空	・	第二十三期飛行練習生終業
北	空	・		第二十三期飛行練習生終業
谷	空	・		第二十三期飛行練習生終業
・		二十五	日	第二十四期飛行練習生始業
眞	空	二十三	日	第二十三期飛行練習生終業
鈴	空	四	日	大井空練習生ノ教育開始
・		十六	日	同 右 終了
・		二十五	日	第二十三期飛行（攻特）練習生終業
霞	空	三十	日	第十期飛行科豫備學生始業

海 軍

(5) 訓練		(4) 實驗研究	
期 日	種 目	項 目	實 驗 研 究 事 項
自二十三日 至二十六日	横領第一次 陸上警備訓練	一、非常時警備部署ノ演練 二、戒嚴配備部署ノ演練 三、應急部署ノ演練	一、本府下各部ノ關係 二、營スル財團法 三、神奈川縣警察部 兵隊協力
	横領第一次 防護訓練	各部ニ於ケル機密保持及 防護ノ程度ヲ實際ニ調査 檢討シ其ノ改善資料ヲ得 ルト共ニ防護思想ヲ向上 普及セシムルニ在リ	一、時局下防護 ニ關シ大ナ ル成果ヲ得 タリ
本月完了セルモノ		一、射撃兵器第十八回實驗 二、零式一號及假稱零式二號艦戰ノ燃料系統改造 三、假稱航空機用電波探信機實驗	

海 軍

(1) 艦船關係

(二) 修

研究中ノモノ	本月着手セルモノ	
六五件	四 特務艦掘津爆彈貫徹力第二回實驗 一、九九式二號艦爆（假稱）實驗 二、零式一號觀測機一型實驗 三、假稱九一式魚雷改六實驗 四、水雷用燃藥實驗 五、假稱小型哨偵儀實驗 六、航空機用機銃彈藥包第四回實驗 七、第五回實驗 八、防雷具實驗 九、試製方位盤追尾照準演習要具（砲用）實驗	

海軍

廠外依頼

山	被害艦船名	着手月日	竣工月日	記	雷撃ニ依ル被害
雲	五月十八日				

被害艦船（特設艦船ヲ含ム）ノ修理				
竣工	進水	竣工	進水	竣工
五月三十日	五月十五日	五月三十日	五月二十二日	五月十六日
伊勢第三一潜水艦	第二八號驅潜艇	伊勢第一八潜水艦	第三二號驅潜艇	第四一號驅潜艇
吳	舞	佐	（横）	
鎮	鎮	鎮	鎮	
横	鶴見製鐵造船會社	横	鶴見製鐵造船會社	三
廠		廠		保

竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工
竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工	竣工、進水、竣工
五月五日	五月九日	五月十六日	五月二十二日	五月三十日	五月三十日
第一六八號艦	第四一號艦	第五二五號艦	第三二號艦	第二八號艦	伊勢第三一號艦
（所）	（所）	（所）	（所）	（所）	（所）
東京石川島造船所	三菱造船會社橫濱船渠	三	鶴見製鐵造船會社	鶴見製鐵造船會社	吳
建造所	建造所	建造所	建造所	建造所	建造所

海軍

海軍

(2) 本月修理状況

入渠艦船数（小型船ヲ除ク）

二十二隻

被害艦船名	着手月日	竣工月日	修理場所	記事
第三日ノ丸	五月三十一日		三菱横濱船渠	機関ニ依ル被害
長田丸	五月十五日		浅野船渠	銃機関ニ依ル被害
嵯川丸	四月十三日	五月二十四日		機関ニ依ル被害
第十二昭南丸	四月二十三日	五月二十日	浦賀船渠	砲撃ニ依ル被害
工作艦名	種類	修理完了機数		
一空廠	零式艦上戦闘機二一型	二機		
	九七式艦上攻撃機一一型	五機		
	九四式陸上攻撃機一一型	二機		
	九四式水上偵察機一二型	四機		
	九〇式陸上機上作業練習機	四機		

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

本月空輸狀況

機名	機種	空輸機數
一空廠	九六式陸上攻撃機	一六機
零式艦上戦闘機	一三機	
九七式一號艦上攻撃機	一機	
九七式三號艦上攻撃機	二機	
九〇式二號機上作業練習機	三機	
D二號陸上輸送機	二機	
二空廠	零式艦上戦闘機	七七機
九六式艦上戦闘機	八機	
九六式陸上輸送機	九四機	
一式陸上輸送機	三六機	
D二號輸送機	一一機	

海軍

海軍

空技支廠				二空廠			
廠名	名	稱	製造量	廠名	名	稱	製造量
試製五〇番通常爆彈	一四試二五番四號爆彈 (推薬點火裝置共)	三〇疋演習爆彈一型	九七式六番陸用爆彈(空)	六番一號陸用爆彈()	九九式六番二號爆彈()	假稱九八式七番六號爆彈二型	
五〇個	三〇個	三八八個	二六一個	一四〇個	五六三個	六〇〇個	
本月爆彈製造數量				九七式飛行艇	九四式水上偵察機	零式水上偵察機	
				九機	六機	五機	九機

海軍

(5) 火藥關係			空技支隊		
本月製造數量					
廠名	名	稱	製造量		
一火廠	假稱九九式二五番通常燃彈用炸藥		七四三個		
	八〇番陸用燃彈改一炸藥		四六三個		
	九九式二五番通常燃彈一烈炸藥		七三二個		
	九一式燃藥		一〇五、〇五〇個		
	ヘキシル		四七、〇〇〇個		
二火廠	三五〇番一三式無煙火藥		六四、四七七個		
	一一五番一三式無煙火藥		七二、六九九個		
				底彈體	七十七個
				七八五九七七個	
				二五四個	
				九九式二五番通常燃彈(空)	
				九九式二五番通常燃彈素材	

海軍

二火廠	五三番一三式無煙火藥	五、八六四疋
	三〇番一三式無煙火藥	八四、〇二八疋
	二一番一三式無煙火藥	四三、九九六疋
	二一番九三式二號無煙火藥	二一、九三一疋
	二〇番八九式無煙火藥	二四、二四二疋
	一〇番八九式無煙火藥	九、三六一疋
	一式二號機銃火藥	三九、三一二疋
	二十耗一型機銃火藥	八、八三一疋
	八九式一號機銃火藥	二一、四八一疋
	各種試製煙藥	一、六四一疋
	八八式煙藥	一四五、六六五疋
	假稱一式煙藥	一八七、八二五疋
	濃硫磺	七、〇六〇疋

海軍

(4) 燃料關係

本月製産數量

二火廠和			備			一七四、〇〇〇立		
廠名	名	和	製	造	量	廠名	名	和
一燃廠	五號精密機械油	一・六立	航空チーゼル油	二、九八〇立		二燃廠	航空二號揮發油	一四五、〇〇〇立
	輕質潤滑油	一九〇立	再生航空機油	四、〇〇〇立			特種航空九一揮發油	三三三、〇〇〇立
	五號內部機油	八二八立					航空九一揮發油	四、二〇九、〇〇〇立
							航空八七揮發油	一、七七六、〇〇〇立

海軍

(5) 主要施設工事			
項目	工事	名	種
本月完成セルモノ	一、横需第二兵器事務所増築		
	二、横廠會計部大船材料置場新設		
	三、豐廠水道設備		
	二燃廠	航空八五揮發油	一、二〇四、〇〇〇立
	一號普通揮發油	一、一一一、〇〇〇立	
	三號普通揮發油	一、七一七、〇〇〇立	
	一號石油	一三九、〇〇〇立	
	二號石油	一二〇、〇〇〇立	
輕油	二、五六四、〇〇〇立		
二、二五〇、〇〇〇立			
船用重油	四三、五六八瓩		

本月完成セルモノ	本月着手セルモノ
四、濱空指揮所、寫眞所、充電所増築	四、横空自力發電所新營
五、濱空第三滑走台改修	五、大井航空隊（假稱）隊外酒保新營
六、千疊敷山防空砲台施設	六、工校分校新設
七、城ヶ島其ノ他聴測照射機指揮所新營	七、工校分校配舍其ノ他新營
八、東京灣方面△航空隊斜用水道新設	八、工作校酒保其ノ他整備
一、横廠造船部應急施設	
二、空技廠（金澤地區）貯水池新設	
三、二空廠新設	

海軍

補給

(1) 策源地（横須賀）出港船舶動

訓令ニ依
工事ノモ
リ

本月着手セルモノ

九、横二海陸施設増備

一〇、一燃廠官舎新營

一一、横鎮防空指揮所新營

一二、横鎮徴用員寄宿舍附収療施設（進捗）

一三、土木建築技術員講習應急施設

一四、野島岬見張所信號竿移設

一五、三宅島其ノ他見張所増設

一六、勝浦特設見張所新設

一七、沖港（乙）防備所新設

二八 九 件

海軍

(2) 主要輸送物件類

六二隻		隻數	總噸數
三九八、一三一噸			
輸送物件名		數	量
一號塊炭		一	噸
二號塊炭		一	噸
其他石炭		三五〇	噸
一號重油		九九四	噸
二號重油		一九	噸
九一揮發油		一、三七〇	軒
八七揮發油		六七〇	軒
普通揮發油		二四〇	軒
二號石油		三四〇	軒

海軍

海軍

(四) 充員補充

(1) 發令狀況

充員令日	番 號	事 項	航 空 機 油	其 他 油 類	爆 彈	彈 藥	其 他 兵 器	軍 需 品	糧 食 酒 保 物 品	人 員
十 日	横領充第一六四號	豫備兵二一名ニ對シ充員召集發令	一〇〇 對	一五〇 對	三九六 担	四二四 担	三九八 担	六、〇八一 担	一、八八一 担	二、六七九 名
十 四 日	同 第一六五號	豫備兵九名ニ對シ充員召集發令								

(2) 集合状況

十六日	勅令第八〇四號	退役特准士官ニ對シ出頭命令發令
十九日	梯鎮充第一六七號	下士官兵一五〇名ニ對シ充員召集發令

期日	特准 下士官兵	豫備員 數	特准 下士官兵	豫備員 數
一日			二一八	三
二日				一
五日				四〇
十日		二一		二一
十四日		九		九
十五日				一
十六日	二			
十九日	一五〇			
二十一日			二	

海軍

(5) 戦死者員数

二十九日

一四一

種別	特准	下士官兵	豫備員	軍屬	計
本月中ノ戦死者	一〇	三三四	六	六八	四〇八
學藝發生以來ノ 延員數	一一二二、一一六	一一	一三八	二、三七七	

(5) 船舶徴備

本月徴備船舶左ノ如シ

一隻數	總數
一	七
一隻數	噸數

(2) 政策ニ關スル事項

特ニナシ

海軍

0880

与
人
員
ノ
現
状

1880

(1) 横須賀鎮守府司令部

(一) 職員官氏名

職	主務	官	氏名	記
司令長官		海軍中將	平田 昇	
参謀長		海軍少將	藤田 利三郎	
参謀	首席	海軍大佐	川井 繁藏	
同	航	海軍中佐	山下 榮	
同	通	海軍少佐	長谷川 敏行	
同	戦	海軍少佐	十川 潔	
同	機	海軍機關中佐	目黒 孝清	
同	運	海軍機關中佐	加藤 武夫	一日艦政本部出仕兼海軍運輸部 部員 四日退廳
同	同	海軍機關少佐	郡山 義廣	
副官		海軍中佐	眞田 研二	

海軍

同	同	出仕	文庫主管	法務長	主計長	軍醫長	機關長	人事長	同	同	參謀(兼)	副官兼參謀
		松島空(假稱) 設立準備委員長	海軍大佐	海軍中佐	海軍主計少將	海軍軍醫少將	海軍機關大佐	海軍少將	東京海軍要 參謀	同	東部軍參謀	
		設立準備委員長	海軍大佐	海軍中佐	海軍法務少將	海軍主計少將	海軍機關大佐	海軍少將	陸軍中佐	陸軍中佐	陸軍大佐	海軍大尉
		海軍大佐	市村茂松	平山武俊	萩原竹治郎	久武戒三	高城 藩	友成佐市郎	柳澤啓造	田島和市	萩 三郎	河合秀男
		海軍大佐	是枝 操	磯口 曠								
		同 二十五日附名古屋航空隊司令 退 職	同 二十日出仕 設立準備委員長	同 二十日出仕 設立準備委員長								

海 軍

出仕	海軍中佐	木村 一郎	二十二日附 横須賀地方海軍運輸部部員
同(兼)	海軍機關大佐	内田 忠雄	
同	海軍機關大佐	木村 辰治	
同	海軍機關大佐	瀬谷 武之丞	
同	海軍機關大佐	立川 道夫	
同	海軍機關大佐	堤 健男	二十二日附出仕 三重空(假稱)設立準備委員
同(兼)	海軍軍醫中佐	山岸 俊雄	
同	海軍軍醫少佐	久保 正	
同(兼)	海軍藥劑少將	清水 辰太	
同(兼)	海軍主計大佐	岩 崎 光	
同(兼)	海軍主計少佐	關 司 寛	
同	海軍主計特務大尉	渡邊 四郎	
同	海軍主計特務大尉	陶川 龜吉	

海軍

出仕	横廠服務	海軍步兵大佐	堀	薄
同(兼)	法務長附	海軍法務中佐	山田	龜之助
同	軍醫長附	海軍看護長少尉	高橋	義延
同(兼)	氣象觀測	海軍技師	渡邊	松壽
横領附	無線、有線電報 取扱員	海軍特務中尉	潮木	直保
同	機關長附	海軍機關特務中尉	越後	一
同	運輸補給	海軍機關特務少尉	高橋	貞之助
同	文庫主管附	海軍兵曹長	山本	十二郎
同	人事長附	理事官	神田	捨春
參謀長 承命服務	防空	海軍特務中尉	矢野	國吉
同	軍人住宅	海軍工務特務中尉	木幡	勇
同	防諜、防空	海軍特務少尉	田川	留吉

七
二十八日
横領附
着任

一日
横須賀軍需部所管トナル

海
軍

アジア歴史資料センター
Japan Center for Asian Historical Records
<http://www.jacar.go.jp/>

9880

三
令
通
報
告
等

海軍

一日 二二〇〇	一	本一日〇九四〇勝浦ノ一八〇度四〇押ニ於テ敵潛水艦發見ス附近警戒ヲ要ス	無
一日 二三三〇	一	橫濱柳密第五一八番電 橫濱通商保護報第三六號 一日〇九四〇勝浦ノ一八〇度四〇押ニ於テ敵潛水艦發見ス附近警戒ヲ要ス 二二日夜八丈島東方ニ味方潛水艦一隻行動ス	電
一日 二三三〇	知床、伊七三潛 艇各艇長、一哨、二 丸 船 長	本一日〇九四〇勝浦ニ千集艦ノ一八〇度四〇押ニ敵潛水艦ヲ發見セリ	電
一日	(橫防艦) 七根各司官	機密橫濱命令作第七八號 橫須賀鎮守府命令作發布(別紙添)	電
一日	海防部 指 揮 官	機密橫濱命令作第四二號 一、明五月二日一三〇〇退艦トラツクニ同ク橫須賀出港ノ豫定 二、海防部及館山海軍航空隊ハ前略警戒ニ任	電
一日	鎮長官		電

一日 〇〇〇〇	一日 〇一三〇	官房機密第八〇二番電 五月一日附第二編密各艇ヲ斷離艦船ト定メラル 電 無
海軍大臣	樺 鏡 長 官	官房機密第八〇七番電
一日 〇〇〇〇	一日 〇一五〇	五月一日附 一、汽船小牧丸ヲ特設航路機運搬船トシ樺須賀鎮守府 所管ト定メラタル所之ヲ解カル 二、汽船大鵬丸ヲ特設運送船（雜用船）トシ樺須賀鎮 守府所管ト定メタル處之ヲ解ク
海軍大臣	樺 鏡 長 官	官房機密第八〇六番電
一日 〇〇〇〇	一日 〇二〇〇	五月一日附 一、汽船あるせん丸及ぶらむる丸ヲ特運（雜用船） トシ樺鏡所管ト定ム 二、漁船第三共和丸外一六隻（兵備三機密第一七號ノ 四ノ七通知中第三、五十鈴丸、第一日進丸、第三 明神丸、第二榴荷丸ヲ除ク）及漁船三重丸、新勢 丸、第一福徳丸、第三盛運丸ヲ特監視トシ樺鏡所 管ト定ム
海軍大臣	樺 鏡 長 官	官房機密第八〇〇番電
一日 〇〇〇〇	一日 〇二二五	官房機密第八〇〇番電
海軍大臣	樺 鏡 長 官	官房機密第八〇〇番電

海 軍

(新 合 約)

海軍大臣	各鎮長官、各艦長官、各艦隊長官	五月一日附時設聯合通信隊編制中左ノ通改定セラル 第一聯合通信隊ノ項中「沖繩通信隊」ヲ削ル	(海軍省)
海軍大臣	一日 〇二五〇 各鎮、各艦、各艦隊長官	官房機密第七九番電 五日一日附時設聯合通信隊編制中左ノ通改定セラル 第一聯潛隊及第十二聯潛隊ノ各項ヲ削ル 第十一聯潛隊ノ項ノ次ヲ左ノ一聯ヲ加フ 第十三聯潛隊第二十五號、第二十六號、第二十七號、第二十一聯潛隊ノ項中第四號第二十九號第六號ヲ削ル	電
海軍大臣	一日 〇三二五 横須賀鎮長官、吳鎮長官	官房機密第八〇四番電 一、第一號、第二號哨戒艇ノ横須賀防備隊所屬ヲ解ク 三、第三四號、第三五號哨戒艇ノ佐伯防備隊所屬ヲ解キ本籍ヲ横須賀ト改ム	電
海軍大臣	一日 〇三三〇 南西方面艦隊長官、横須賀鎮長官	官房機密第八〇五番電 五月一日附時設聯合通信隊編制中左ノ通改定セラル 解ク 特設第二古座丸(以下省略) 錦正ヲ六二番艦	電

海軍

1680

	一日 〇〇〇〇 大 中	一日 〇五〇〇 六艦隊長官
	一日 〇八〇〇 各艦、各艦長官 各艦隊長官	一日 一〇四〇 富士丸艦長官 (横須賀長官)
第二和丸、第三和丸、第五和丸、第六四號艦隊、天神丸、山城丸、第二號愛國丸、第二號報國丸、バラオ丸、六五號艦隊 第二號南洋丸、第二福丸、第二號南州丸、第一號東洋丸、宇久井丸、八一號艦隊、第三日蘭丸、第五開進丸、第三南進丸、第二大和丸、第二大寶丸、八二號艦隊所屬ト定ム	官房機密第八〇番電 五月一日附特設聯合通信隊編制中左ノ通改定セラル 第一聯通ノ項中「沖繩通」ヲ削ル 六艦隊長官第一六番電 發 六艦隊長官 六艦隊長令第三二號 一、二番艦(さんとす丸缺)ハ精須賀ニ於テ整備作業ヲ施行六月十日迄ニ作戦準備ヲ完成スベシ 三、さんとす丸ハ精須賀ニ歸着セバ整備ノ上同地ニ於テ待機スベシ(八月下旬クエゼリンニ進出セシムル豫定) 三、富士山丸ハ精須賀ニ於テ整備作業ヲ施行シタル上六月十日迄ニトラックニ進出スベシ	六艦隊長官第一六番電 發 六艦隊長官 六艦隊長令第三二號 一、二番艦(さんとす丸缺)ハ精須賀ニ於テ整備作業ヲ施行六月十日迄ニ作戦準備ヲ完成スベシ 三、さんとす丸ハ精須賀ニ歸着セバ整備ノ上同地ニ於テ待機スベシ(八月下旬クエゼリンニ進出セシムル豫定) 三、富士山丸ハ精須賀ニ於テ整備作業ヲ施行シタル上六月十日迄ニトラックニ進出スベシ

海軍

海 面 防 備 部 官	一 日 一 二 四 五 第二掃蕩攻撃隊	海 面 防 備 部 機 密 第 四 七 番 電 一〇九四〇勝浦ノ一八〇度四〇洋ニ敵潜水艦 一隻見ユ 三即時待機トナセ 二二一五 電
海 面 防 備 部 官	一 日 一 三 一 三 第一掃蕩攻撃隊 第二掃蕩攻撃隊 (横領參謀長)	海 防 機 密 第 四 八 番 電 一海防機密第四七番電ノ敵潜水艦ハ其ノ後海流ニ依 東方ニ概ネ速力二節ニテ移動シツツアルモノト認 ム 三第二掃蕩攻撃隊(沖風ハ直ニ澤風ハ高雄、摩耶護衛終 了後歸ハ本日ノ勤務終了後)ハ敵潜水艦潛在海面 ヲ中心トスル三〇埋込内ノ掃蕩ヲナセ 三第一掃蕩攻撃隊(猿島第二二號艦艇缺)ハ館山ニ進 出待機スベシ 猿島ハ護衛任務終了後第一掃蕩攻撃隊ニ合同セヨ 一海防機密第一二三番電 當隊潜水艦(伊二五潜水艦、伊三三潜水艦ヲ除ク) 整備工畢完了ス
海 面 防 備 部 官	一 日 一 四 一 九 第一掃蕩攻撃隊 第二掃蕩攻撃隊 (横領參謀長)	海 防 機 密 第 四 八 番 電 一海防機密第四七番電ノ敵潜水艦ハ其ノ後海流ニ依 東方ニ概ネ速力二節ニテ移動シツツアルモノト認 ム 三第二掃蕩攻撃隊(沖風ハ直ニ澤風ハ高雄、摩耶護衛終 了後歸ハ本日ノ勤務終了後)ハ敵潜水艦潛在海面 ヲ中心トスル三〇埋込内ノ掃蕩ヲナセ 三第一掃蕩攻撃隊(猿島第二二號艦艇缺)ハ館山ニ進 出待機スベシ 猿島ハ護衛任務終了後第一掃蕩攻撃隊ニ合同セヨ 一海防機密第一二三番電 當隊潜水艦(伊二五潜水艦、伊三三潜水艦ヲ除ク) 整備工畢完了ス
一 日 一 二 一 〇 一 海 戰 司 令 官	一 日 一 七 〇 〇 聯合艦隊、六艦 各艦長官 (横領長官)	一 日 一 七 〇 〇 聯合艦隊、六艦 各艦長官 (横領長官)

海
軍

一日 一六四〇 東印部隊指揮官	一日 一四〇〇 第六空襲部隊 指揮官
一日 一二三〇 東印部隊各司令官 (横領長官)	一日 一七二〇 第六空襲部隊 第三航空基地 指揮官
東印部隊機密第九七一番電 一、五月一日附大海機密第一九〇番電ノ通戰時編制改 定セラル 二、第二艦隊及第二十二艦隊ハ夫々横須賀鎮守府 司令長官及聯合艦隊司令長官所定ニ依リ内地ニ歸 還スベシ 右行動中第二十二艦隊司令ハ麾下ノ一艇ヲシテ	第六空襲部隊機密第一三二番電 第六空襲部隊電信令第一〇號 一、南島島派遣隊飛行機隊ノ交代並ニ進出要領左ノ通 改ム 三、澤空中攻九機三日南島島發木空ニ歸投、六空零 戰六機(木空中攻二機誘導)三日南島島發硫黃島 經由四日南島島進出木空中攻九機四日硫黃島上空 經由南島島進出 三、三澤空南島島派遣隊中攻隊ハ二日同地着日施索敵 實施ノ旁ヲ適宜敵潛水艦ヲ制壓並ニ慶洋丸前路ノ 對潛索敵ヲ實施スベシ 三、明二日木空基地ノ日施索敵ヲ第一配備三乃至九番 線(六〇度一〇五度間七〇〇)渾使用機七機)トス 電

海軍

(新資料)

0894

海軍

東丸及拿捕船「チサロア」ヲ「マカツサル」ニ
「ルソン」北方附近迄護衛セシムベシ

(新 介 納)

51
11
113

	二日二四〇 横領長官
	横一、司令、横長、 空司令、空技、 部支、部、 同長、 部、 横、 廠長
三二日一二三〇横ノ崎沖一海ノ地點ニ於テ敵潛ノ攻 撃ヲ受ケタル船アリ 三、明三日早朝野島崎東南方ニ味方潜水艦ニ待行動ス 注意セヨ	機密横領信電令作第四三號 二二日一二三〇瑞穂遭難者摩耶、高雄ニ便乗入港ノ 豫定 三、第一海兵團長ハ左ニ依リ遭難者ノ收容作業ニ任ズ ベシ イ、要入院患者 横病ニ收容 ロ、其ノ他 館山航空隊ニ收容 三、各部ハ左ニ依リ前項作業ニ協力スベシ イ、横須賀港務部長ハスランチーカッター二通船一 及其ノ他船艇ヲ派遣シ海上交通ニ任ズ 別ニ大型曳船一隻ヲ館山灣ニ派遣ス ロ、第一海兵團長ハ機架隊員一二〇名ヲ一二三〇迄ニ 横病ニ派遣ス ハ、左ニ依リ乗合自動車ヲ一二三〇迄ニ横病ニ派遣 ス 空技廠三、空技支廠一、軍需部一、横廠一
簡	電 令

一日 一七四〇 十三號艦艇長	二日 〇三一五 十四號艦艇長 (植鎮長官)	艦艇十三機密第四〇番電 二一潛水艦基地隊司令ノ要求ニ依ル「JB」發 N 同航ノ陸軍船團ノ護衛ハJB水路北口迄第十四 號艦艇前後第十三號艦艇トス第十四號艦艇 ニ引繼水路北口ノ警備並ニ嚮導ニ當ラレ度シ	電
一日 二三三〇 舞鎮長官	二日 〇五三七 大 臣 (各鎮長官)	舞鎮機密第六五番電 五月一日舞鎮地方海軍運輸部ヲ舞鎮軍需部内ニ開 設事務ヲ開始セリ	・
一日 一九〇〇 一掃司令	二日 〇六二〇 掃鎮長官、大臣 總長官、一南道艦 隊長官、九一〇 根各司令官	一掃機密第一二三番電 第四號掃海艇修理完成	・
二日 〇八四〇 伊七二潛艦長	二日 一六三五 掃鎮長官	七二潛機密第三七八番電 伊號第七二潛水艦三日〇九三〇N線ヲ通過航行速 力十二節一三〇〇入港ノ豫定	・
二日 〇四〇〇 二號潛艦司令	二日 〇七五八 掃鎮長官 二十一機司令	二號潛艦機密第一三五番電 艦艇一五ヲ率テ二日「スラバヤ」發「バタビヤ」 ニテ一三號艦艇、一四號艦艇ヲ合同補給西貢	・

官報第1111号	二日 〇五〇〇 伊勢海防支官		一日 一九〇〇 大塚義雄二部長
官報第1111号	二日 〇八四〇 伊勢海防支隊		二日 一二二〇 各鎮、各警參謀 長、二海上護衛隊參謀長
高雄、基隆エテ補給ノ上途中對潜掃蕩ヲ實施シツツ 二十九日頃撤退須賀着ノ豫定	伊勢海防支隊密第一二六番電 電令作第三七號 一、作命令第一二號 第一配備乙ニテ警戒ヲ嚴ニセヨ 三、哨區基點大王埼燈臺ノ一五〇度六澤 三、第一線 基點ヨリ九〇度三〇澤線附近 四、第二線 基點ヨリ二三〇度三〇澤線附近 五、第一線、第二線ハ二十五掃海隊ノ受持トシ交代法 及區別ハ司令ノ定ムル所ニ依ル 六、驅潜艇ハ基點ノ五〇度五澤ヨリ三五澤迄ノ間當直 艇ハ西方次番艇ハ東方一〇〇〇交代 七、金剛山丸ハ第一線、第二線ノ外方ヲ警戒スベシ 八、海面防備部隊機密第五〇番電ノ攻撃對勢ニ關シテ電 ハ萬遺憾ナキヲ期スベシ	大海機密第三一七番電 大本營通商保護情報第三二號 一、二十九日一四二七北緯丸ハ北緯二九度二五分東經	

6680

二日 一〇〇〇 海防機密第五番電 指揮官	二日 〇九二〇 佐領參謀長	
二日 一四四五 第二掃海隊指揮官 長、佐置丸艦長	二日 一三四五 大海一部長	
海防機密第五番電 海防機密第五番電ノ任務ヲ解ク 高千穂丸ハ特令アル迄第二掃海攻撃隊指揮官ノ指揮	佐領機密第六七二番電 香洋丸ヨリノ電ニ依レバ一日二二〇〇頃東經一二七 度四一分北緯三二度五分ニ於テ蘇聯商船「アング ストロウイ」鯨魚雷二本ヲ受ケ沈没ス其ノ乗員六〇 名香洋丸ニ救助セラレタリ	二二十九日一四二七北緯丸ハ北緯二九度二五分東經 三六度五一分ニテ潜水艦一ヲ認メ情報三一號ト 綜合潮岬南方海面ニハ二乃至三隻ノ敵潛アリト認 ムラル 三三十日一一四〇君島丸ハ北緯五度六分東經一二五 度五一分ニ於テ雷撃ヲ受ケタルヲ被害ナシ 三三十日二一〇〇阿丸ハ北緯九度二四分東經一五 六度一八分ニ於テ雷撃ヲ受ケタルヲ航行ニ支障ナ シ 四一日〇九四〇鍾空飛行機ハ勝浦ノ八度四〇渾ニ於 テ一四〇度方向ニ進航中ノ敵潛一隻ヲ認ム
	電	無

	(横領参謀長)	ヲ受ケ現場對潜掃蕩ヲ實施スベシ 戦艦丸ハ對潜掃蕩ヲ行ヒツツ浦賀ニ歸レ歸途第二 京仁丸ノ攻撃地點(劍崎一二四度一五澤附近ヨリ 同二二〇度一〇澤附近)附近ノ海洋浮狀況ヲ調査 セヨ	無
二日 一一〇〇 兵備局長	二日 一五五〇 各鎮参謀長	兵備機密第四二六番電 兵備三機密第一七號ノ三ノ二七 船舶解備通知中稻荷丸、榮港丸、彰化丸、松安丸 ヲ削除シ黃海丸、神龍丸、諾威丸、松連丸ヲ解 備セシメラルル豫定	電
二日 一六〇〇 海防部 指揮官	二日 一七四五 京津丸艦長、興 海丸艦長、第一 隊	海防部機密第六三番電 一、五月一日〇九〇〇勝浦ノ南四〇澤エテ館山航空 隊飛行機ニ依リ發見セル敵潜水艦ハ其ノ後丁エ ニ哨區ニアル公算大ナリ 二、第一隊掃蕩攻撃隊第一小隊ハ護衛任務終了後丁 哨區京津丸、興海丸(京津丸艦長指揮)ハエ二 哨區ヲ掃蕩攻撃セヨ	.
二日 一三三〇 阪警参謀長	二日 一八一〇 軍令部一部長	阪警機密第一二七番電 一、本日一二三〇日遼丸ハ樺野崎沖一澤ニ於テ敵潜	.

二日 〇九〇〇 伊勢海防備支隊 指揮官	
二日 一八二五 十三聯空司令官 伊勢海防備支隊 (橋本參謀長)	兵備局長 軍務局長 (各領參謀長)
二日 一〇二〇 聯合艦隊參謀長	二日 一八三〇 聯合艦隊各長官 聯合艦隊各司令官 (各領參謀長)
伊勢海防支隊機密第一二七番電 電令作第三八號機密伊勢海防備支隊命令第十二號第 十三項各部隊通信中左記ノ通り改ム (一)基點前記基點略語ノ追加ハツ崎(ハ)「チタ 半島南端」(ハ)對空敵情通信ハツレウ監視心得ニ依レ バ發見時ノ位置ハ經緯度ヲ以テ示スコトナリ居ル 事對潛通信同様「基點」ノ方位(眞方位)距離ヲ以テ 示スコトスルニ改ム 聯合艦隊機密第九四一番電 敵潛水艦跳梁ハ狀況ニ鑑ミ左ノ事項ヲ勵行セラレ度 一、大巡以上ノ軍艦航空母艦及主要艦船回航ノ際ハ出 來得ル限り各部隊ニ於テ隨時直衛ヲ附シ右實施シ 得ザルトキハ當司令部ニ要望ス 二、敵潛水艦出沒ノ情況ニ照シ施策ノ選定ヲ適當ナラ シム(敵潛ハ發見セラルレバ直ニ移動ス) 三、驅逐艦等單獨回航ノ際ハ途上努メテ敵潛水艦ノ掃 蕩ヲ實施ス	水艦ノ攻撃ヲ受ケ沈没セリ 三、大阪府府部隊ハ全力ヲ以テ之ヲ攻撃並ニ救援ニ 努メツツアリ
電	無